

津波は何度も来る

大地震の後、津波は繰り返し何度もやってきます。昭和21年の南海大地震の後も、徳島県や高知県の沿岸部に津波が繰り返し押し寄せて、被害を大きくしました。そのことを徳島県海陽町と高知県土佐市の石碑も伝えています。

■浅川天神社前の南海大地震記念碑（徳島県海陽町）

昭和21年（1946）12月21日午前4時19分、紀伊半島潮岬沖を震源とする南海大地震が発生しました。海部郡沿岸の各地では地震から10分余りで津波の第一波が押し寄せ、さらに15分ないし20分の周期で第二波、第三波が襲来しました。典型的なV字湾である浅川湾では壊滅的な被害を受け、浅川の被害は死者85人、負傷者80人、住家の流失185戸、全壊161戸、半壊169戸に及び、その他船舶、漁具、家財、農作物の流失被害は計り知れないほどでした。浅川天神社の石段は11段ありますが、津波は石段の最上段を越えて拝殿前を1寸洗う程度となりました。路面より6尺5寸（約2m）の高さになります。天神社前には地震から10年後の昭和31年12月に南海大地震記念碑が建立されました。〈浅川天神社前の南海大地震記念碑の碑文、海南町史編さん委員会編「海南町史上巻」1995年、浅川村役場震災誌編集委員会編「南海大地震 浅川村震災誌」1957年）など〉



浅川天神社前の
南海大地震記念碑



浅川天神社の石段と
南海地震最高潮位碑



(地理院地図に加筆)

■宇佐の震災復興記念碑（高知県土佐市）

昭和21年（1946）12月21日午前4時20分、南海大地震が発生し、間もなく津波が襲来しました。津波は7、8度やって来て、3度目は高さ5mに達しました。宇佐地区の被害は家屋の流失・倒壊319戸、半壊323戸、床上浸水を合わせて1,320戸に及び、全戸の8割2歩が被害を受けたこととなります。罹災者は6,250人に及びましたが、犠牲者は県内の他町と比べて少なく、宇佐では死者と行方不明が各1人でした。このことについて、宇佐の震災復興記念碑は「往時ヨリ云イ伝フ欲ヲ棄テテ逃ガレタ者命助カリシト犠牲者ノ僅少ハコノ戒ニヨル」と伝えており、津波を経験した先人が後世の人々に命を守ることが最も大事ということを伝えてくれたおかげと記しています。〈宇佐の震災復興記念碑の碑文、土佐市史編集委員会編「土佐市史」1978年など〉



宇佐の震災復興記念碑



宇佐漁港

copyright © 2013 阿国県史アーカイブス



(地理院地図に加筆)